

PAT-NO: JP409119768A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 09119768 A

TITLE: FOOD MANAGING REFRIGERATOR UTILIZING COMMODITY BAR CODE

PUBN-DATE: May 6, 1997

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

KODAMA, KAZUFUMI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

KODAMA KAZUFUMI

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP07314633

APPL-DATE: October 25, 1995

INT-CL (IPC): F25D023/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To facilitate the recognition of the presence of all foods in a refrigerator by mounting a bar code reader for reading a commodity bar code.

SOLUTION: The commodity name of food is stored in a computer contained in a refrigerator via reading the code by a bar code reader 1. In this case, the date of filling the food in the refrigerator is stored, and the computer calculates the expiration date data for best taste to meet the commodity name. The name and the expiration date are displayed on a liquid crystal screen 2 mounted at the front surface of a door. In the case of using the food, the code is again read, and the record of the food is erased. Thus, all the food in the present refrigerator can be confirmed on the screen.

COPYRIGHT: (C)1997,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-119768

(43) 公開日 平成9年(1997)5月6日

(51) Int.Cl.<sup>8</sup>  
F 2 5 D 23/00

識別記号  
3 0 1

庁内整理番号

F I  
F 2 5 D 23/00

3 0 1 L

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号 特願平7-314633

(22) 出願日 平成7年(1995)10月25日

(71) 出願人 595170041

児玉 和史

岐阜県不破郡垂井町1163番地

(72) 発明者 児玉 和史

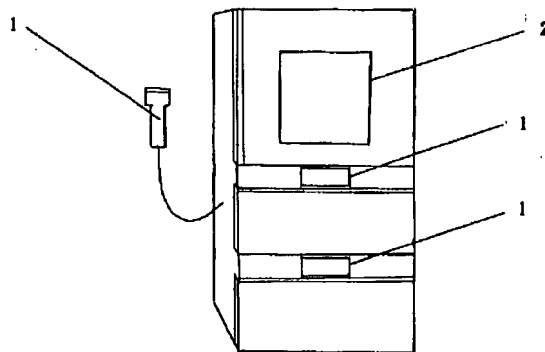
岐阜県不破郡垂井町1163番地

(54) 【発明の名称】 商品バーコードを利用した食品管理冷蔵庫

(57) 【要約】

【目的】 大容量の冷蔵庫では中に入っている食品全てを把握するのは難しく、奥の方の食品の存在を忘れたり、その結果、腐らせたりすることがあった。そこで、本来、食品の価格を表示するための商品バーコードが商品名をも表示することを利用して、冷蔵庫に商品バーコードを読み取らせることによって冷蔵庫内の全ての食品の商品名と賞味期限を扉を開けることなく確認できるようにすること

【構成】 冷蔵庫の前面と側面にバーコードリーダー(1)を取り付け、冷蔵庫内部のコンピュータに接続する。バーコードリーダーで読み取った商品名とコンピュータによって導き出された賞味期限を一覧表示する液晶画面(2)を冷蔵庫の扉の前面に取り付ける。



1

2

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 商品バーコードを読み取るバーコードリーダーを取り付けた冷蔵庫

【請求項2】 商品名と、予め入力されている賞味期限のリストを照らし合わせるコンピュータを内蔵した冷蔵庫

【請求項3】 情報を表示する液晶画面を扉の前面に取り付けた冷蔵庫

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、冷蔵庫の食品管理に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来の冷蔵庫では奥の方の食品の存在を忘れがちであった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】冷蔵庫の中の全ての食品の存在を認識し易くすること。

【0004】

【課題を解決するための手段】本来、商品の価格を表示するための商品バーコードが商品名をも表示することを利用して食品の商品名を冷蔵庫に記憶させ、表示させる方法。

【0005】

【作用】商品バーコードをバーコードリーダー（1）に

よって読み取らせることを通して食品の商品名を冷蔵庫に内蔵してあるコンピュータに記憶させる。この際、冷蔵庫にその食品が入った日付けも記録されコンピュータは、その商品名に見合う賞味期限を計算し、商品名と、その賞味期限を扉の前面に取り付けてある液晶画面（2）に表示させる。又、食品を使用する際には再度、商品バーコードを読み取らせて、その食品の記録を消去させる。そうすることで現在の冷蔵庫の中にある全ての食品を画面上で確認できる。

10 【0006】

【実施例】冷蔵庫に食品を入れる際には必ずバーコードリーダーで、商品バーコードを読み取らせる。又、出して使う際には同じようにバーコードリーダーで、再度、商品バーコードを読み取らせる。そうすることで冷蔵庫の中の全ての食品及其の賞味期限を液晶画面上で認識できる。

【0007】

【発明の効果】冷蔵庫の中にどれだけ食品を詰め込んでも、ひとつとして忘れたり、腐らせたりすることなく管理できる。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の斜視図である。

## 【符号の説明】

1 バーコードリーダー

2 液晶画面

【図1】

